

## 3・11 大川小学校と鳥取をつなぐ集い

- 映画「『生きる』大川小学校津波裁判を闘った人たち」と  
対談で考える -

倉吉会場

9月17日(日) 13:00~  
16:10

県立倉吉未来中心  
セミナールーム3

鳥取会場

9月18日(月) 13:00~  
16:10

とりぎん文化会館  
第1会議室

「なぜわが子が学校で最後を迎えたのか」  
その答えを探して撮影し続けてきた親たちの記録  
10年間にわたり、

大川小学校 津波裁判を闘つた人たち

# 生きる



[両会場共通] 13:00~16:10 (開場 12:30)



第1部 (13:00~15:00) 映画『生きる』上映 手話通訳合成版

第2部 (15:10~16:10) 寺田監督と遺族の方の対談、質疑

定員 先着150名(予約不要)

入場料 500円(資料代)  
(20歳未満・障がい者無料)

問合せ 090-1685-1478 (ミタニ)

主催：鳥取県、3・11 大川小学校と鳥取をつなぐ集い実行委員会

この実行委員会は、大川小学校で起きた津波災害に関心のある市民で構成しています。

全国民必見のドキュメンタリーです

——尾木直樹（教育評論家／法政大学名誉教授）

生きること。忘れてはならないこと。私達にできること。

震災から12年が経った今も強いメッセージが伝わってきます。

——竹下景子（俳優）

自らの時代の不条理との関わり方を強く考えさせられる、  
そんな力を持った作品です。

——堤 幸彦（映画監督）



大川小学校 津波裁判を闘った人たち

## 「あの日、何があったのか」「事実と理由が知りたい」 親たちの強い思いが、10年にわたる唯一無二の記録となつた

2011年3月11日に起きた東日本大震災で、宮城県石巻市の大川小学校は津波にのみれ、全校児童の7割に相当する74人の児童（うち4人は未だ行方不明）と10人の教職員が亡くなつた。地震発生から津波到達までは約51分、ラジオや行政の防災無線で情報は学校側にも伝わりスクールバスも待機していた。にもかかわらず、学校で唯一多数の犠牲者を出した。この惨事を引き起こした事実・理由を知りたいという親たちの切なる願いに対し、行政の対応には誠意が感じられず、その説明に嘘や隠ぺいがあると感じた一部の親たちは真実を求め、石巻市と宮城県に対して国家賠償を求めて提訴に至る。彼らは震災直後から、そして裁判が始まってからも記録を撮り続け、のべ10年にわたる映像が貴重な記録として残すことになっていく――

### 弁護団はたつた2人の弁護士 親たちが“わが子の代理人”となり 裁判史上、画期的な判決に――

この裁判の代理人を務めたのは吉岡和弘、齋藤雅弘の両弁護士。

わずか2人の弁護団で、原告となつた親たちは「金がほしいのか」といわれない誹謗中傷も浴びせられる中、事実上の代理人弁護士となって証拠集めに奔走する。彼らにとって裁判で最も辛かったのはわが子の命に値段をつけなければならないことだった。それを乗り越え5年にわたる裁判で「画期的」と言われた判決を導く。

親たちが撮り続けた膨大な闘いの記録を寺田和弘監督が丁寧に構成・編集し、独自の追加撮影もあわせて、後世に残すべき作品として作り上げた。



#### [大川小学校 311当日の行動]

14時 46分	地震発生
50分ごろ	校庭に移動し、そのまま校庭に待機
52分	大津波警報 防災行政無線 (予想津波高6m)
15時 10分ごろ	大津波警報 防災行政無線(2回目)
20分ごろ	消防車「高台避難」呼び掛け
28分ごろ	大川小学校前を通過
	石巻市広報車 「追波湾の松林を津波が越えた」と 「高台避難」を呼び掛け、 大川小学校前を通過
35分ごろ	「三角地帯」への移動を開始
37分ごろ	大川小に津波が到達



<https://ikiru-okawafilm.com>



監督 | 寺田和弘 プロデューサー : 松本裕子 撮影 : 藤田和也、山口正芳 音効 : 宮本陽一 編集 : 加藤裕也 MA : 高梨智史 協力 : 大川小学校児童津波被災遺族原告団、吉岡和弘、齋藤雅弘  
主題歌 : 「駆けて来てよ」(歌:廣瀬奏) パリアフリー版制作 : NPO メディア・アクセス・サポートセンター 助成 : 文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会  
後援 : 宮城県 製作 : (株)パオネットワーク 宣伝美術 : 追川恵子 配給 : きろくびと 2022年 / 日本 / 16:9 / 124分 ©2022 PAO NETWORK INC. 2022年文部科学省選定作品 東京都推奨映画

後援 : 鳥取市、倉吉市、岩美町、智頭町、八頭町、若桜町、琴浦町、北栄町、三朝町、湯梨浜町、鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会、倉吉市教育委員会、岩美町教育委員会、智頭町教育委員会、八頭町教育委員会、若桜町教育委員会、琴浦町教育委員会、北栄町教育委員会、三朝町教育委員会、国立大学法人鳥取大学、公立鳥取環境大学、鳥取看護大学・鳥取短期大学・鳥取短期大学付属こども園、公益社団法人鳥取県人権文化センター、鳥取県人権教育推進協議会、とつとり震災支援連絡協議会、部落解放同盟鳥取県連合会、公益財団法人鳥取市人権情報センター、倉吉市人権教育研究会、自治労鳥取県本部、鳥取県教職員組合、鳥取県高等学校教職員組合、とつとり多文化共生市民の会(倉吉)、あと一秒・の会、人権パッチャギの会松江、米子市政研究会、子どもの人権広場、医療と教育について考える会、新日本海新聞社、山陰中央新報社、朝日新聞鳥取総局、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、日本海テレビ、BSS山陰放送、TSKさんいん中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、エフエム山陰、日本海ケーブルネットワーク、鳥取中央有線放送(株) <順不同>